

2024年度 サステナビリティミーティング

第1部 サステナビリティの取組みについて

2024年10月25日

株式会社大和証券グループ本社

執行役副社長 田代 桂子

本資料は、2024年度第1四半期までの業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2024年10月25日現在で公表可能な情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

PASSION
FOR THE
BEST

I - 経営戦略としてのサステナビリティ.....	3
II - マテリアリティにおける取組み.....	7
III - おわりに.....	15

I – 経営戦略としてのサステナビリティ



経営ビジョン「新2030Vision」



中期経営計画：グループKPI

		2026年度目標
業績	経常利益	2,400億円以上
	ROE	10%程度
	ベース利益 ^{*1}	1,500億円
お客様資産	預り資産 ^{*2}	120兆円
	ストック関連資産 ^{*3}	13.6兆円
	AM部門AUM ^{*4}	44兆円
サステナビリティ	デジタル デジタル案件価値創出件数 ^{*5}	10件
	デジタル案件トライアル件数 ^{*6}	50件
	SDGs関連債リーグテーブル	2位以内
	エンゲージメントサーベイスコア	80%以上
	自社の温室効果ガス排出量 ^{*7}	FY2030 ネットゼロ
	投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量 ^{*7}	FY2030 186～255g-CO ₂ /kWh

*1 ベース利益は、WM+証券AM+不動産AMの経常利益額合計。このうちWMは、旧リテール、ネクスト銀行、大和コネクテッド証券、Fintertechの経常利益の単純合算

*2 預り資産残高は、大和証券の預り資産残高

*3 スtock関連資産残高は、投信、ファンドラップ、外貨預金

*4 AM部門AUMは大和アセットマネジメント、大和ファンド・コンサルティング、大和リアル、サムティ・レジデンシャル投資法人、大和PIパートナーズ、大和エナジー・インフラ、大和企業投資のAUM合計

*5 デジタル案件価値創出件数は、新しいデジタル技術を活用している案件で、かつ新規性があるもしくはビジネス変革に資する案件をカウント

*6 デジタル案件トライアル件数は、DX案件とAI・データサイエンス案件のトライアル件数をカウント

*7 自社の温室効果ガス排出量はScope1+Scope2の合計。投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量の対象は、電力セクターへのプロジェクトファイナンス。一部推計値を含む

サステナビリティKPIと企業価値との関係性

マテリアリティ	サステナビリティKPI	2026年度目標	設定趣旨（ビジネスにおける期待効果）	企業価値向上とのつながり
人生100年時代	NISA対象公募株式投信残高(除くETF)	46,000億円	NISA制度拡充を受けた投資家層のすそ野拡大を通じた収益の拡大	収益の拡大 収益機会の多様化
	サステナビリティ関連商品の買付経験顧客数	継続的な拡大	お客様にサステナビリティ投資の意義を普及し投資家のすそ野を拡大	
	GX移行債のプライマリー・ディーラー落札ランキング	3位以内	プライマリー・ディーラーとしての実績を通じた、SDGs債市場の拡大・収益機会の多様化・レピュテーション向上	
イノベーション	SDGs関連債リーグテーブル	2位以内	SDGs債等の資金調達手段の多様化への取組みにより、収益を拡大	レピュテーションの向上
	サステナビリティ関連投資残高	1,800億円	安定した投資利回りが見込める再エネ・インフラ分野への投資による収益の拡大	
	ESG投融資残高	1,000億円	社会課題解決に資する投資への参画によるレピュテーションの向上	
グリーン & ソーシャル	グリーンビルディング認証比率(DOI/DLI/DLP*)	65/20/25%	テナントからのレピュテーション向上・資産価値の向上	生産性の向上
	デジタル案件価値創出件数・デジタル案件トライアル件数	10/50件	ビジネスモデルの変革・新規ビジネスモデルの構築を通じ価値創出や生産性向上を実現	
	女性管理職比率(連結/大和証券)	20/25%以上	多様な意見を基にした業務運営により生産性を向上	
ダイバーシティ & インクルージョン	男性社員の育児休職取得率(連結/大和証券)	100/100%以上	多様な意見を基にした業務運営により生産性を向上	ガバナンスの強化
	エンゲージメントサーベイスコア(連結)	80%以上	社員が能力を発揮できる環境づくりを通じた生産性向上	
	女性取締役比率(大和証券グループ本社)	30%以上	経営判断に多様な視点を取り入れることによるガバナンス強化	
サステナブル経営の基盤	温室効果ガス排出量(自社/投融資ポートフォリオ)	ネットゼロ/186~255 g-CO ₂ /kWh(2030年度)	気候変動対策や環境マネジメントを通じたガバナンス強化	サステナブルな経営基盤の強化
	再生可能エネルギー切替率(オフィス・データセンター)	100%	データセンターやオフィスに再エネを拡げることによりカーボンニュートラル社会の実現に貢献	
	金融経済教育提供者数	250万人(2005-2030年度累計)	中長期的な投資人口の増加に寄与	

* DOI: 大和証券オフィス投資法人、DLI: 大和証券リビング投資法人、DLP: 大和証券ロジスティクス・プライベート投資法人

Ⅱ－マテリアリティにおける取組み



資産運用プランニングツールにESG・SDGs分析機能を導入

人生100年時代

PASSION
FOR THE
BESTアセット・
アロケーション分析

リスク・リターン分析

リスク分析

商品別分析

追加

ESG分析

資産運用プランニング

作成日 2024年2月29日

Part
03

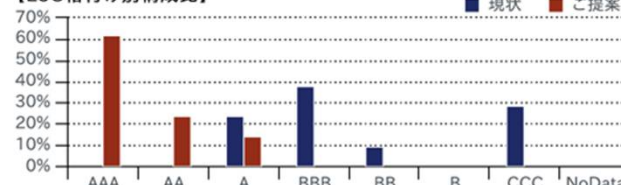
ESG・SDGs分析

ポートフォリオに対する分析結果を以下に示します。分析対象は次ページ以降の「現状ポートフォリオ銘柄一覧」と「買付候補銘柄一覧」に記載の銘柄です。

★ ESG格付け



【ESG格付け別構成比】



お客様のご資産は、環境や社会、企業統治に配慮した銘柄への配分が少なく、相対的にESG特性が劣化したポートフォリオとなっています。銘柄の見直しを検討されてはいかがでしょうか。

※データ出所: MSCI社。ESG格付けとは、企業のESGへの取り組みやESG関連のリスクや機会、リスク管理能力などを分析しスコア化したもの。AAA~CCCの7段階で評価し、スコアが高いほど環境や社会に配慮した持続性の高い企業。E(環境)・S(社会)・G(企業統治)のそれぞれについても0から10で評価。地球温暖化ストレステストは、一定の仮定や推計に基づきポートフォリオの気候変動の影響による価値の増減を推定したものであり、将来の資産価値の変化を確定的に示すものではありません。予想気温上昇は、ポートフォリオの「パリ協定を達成するために許容可能な炭素排出量」と「2050年末までの予想炭素排出量」を計算し、その比率を取り、全世界の炭素排出量がその比率で推移したと仮定した場合の2100年時点の気温上昇幅を算出。あくまでもパリ協定との整合性を示すものであり、将来の気温変化を確定的に示したものではありません。

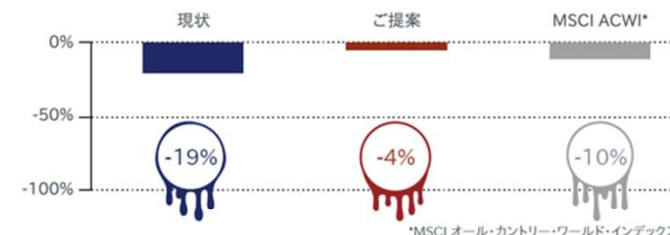
Part 01 プランニングサマリー

Part 02 リスク分析

7

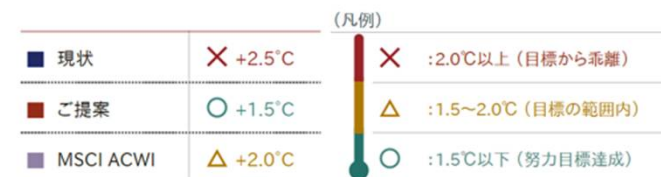
地球温暖化ストレステスト

世界の平均気温が、2100年までに産業革命以前と比べて2℃上昇した場合の、ポートフォリオへの影響度を表示します。



🔥 予想気温上昇（パリ協定との整合性分析）

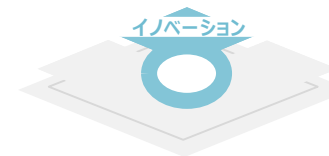
ポートフォリオの推定炭素排出量が、パリ協定の目標（将来の気温上昇を2.0℃以内に抑制）に沿っているかを、気温に変換して表示します。



関連するKPI ※p.6ご参照

サステナビリティ関連商品の買付経験顧客数.....継続的な拡大

AIガバナンスの強化



大和証券グループ AIガバナンス指針

- 1 AIによる社会・経済への貢献
- 2 人間中心のAIの提供
- 3 AIの透明性と説明責任
- 4 AIの適正利用と適正学習
- 5 法令遵守とプライバシー保護
- 6 セキュリティとAI監視
- 7 AIのガバナンス態勢とリテラシーの向上

* 出所: 大和証券グループ AIガバナンス指針 https://www.daiwa-grp.jp/about/governance/ai_governance.html

大和証券グループ本社

グループAIガバナンス委員会

指針の啓蒙・社内周知

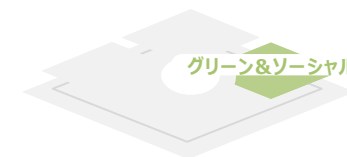
検討事項・事例等

大和証券

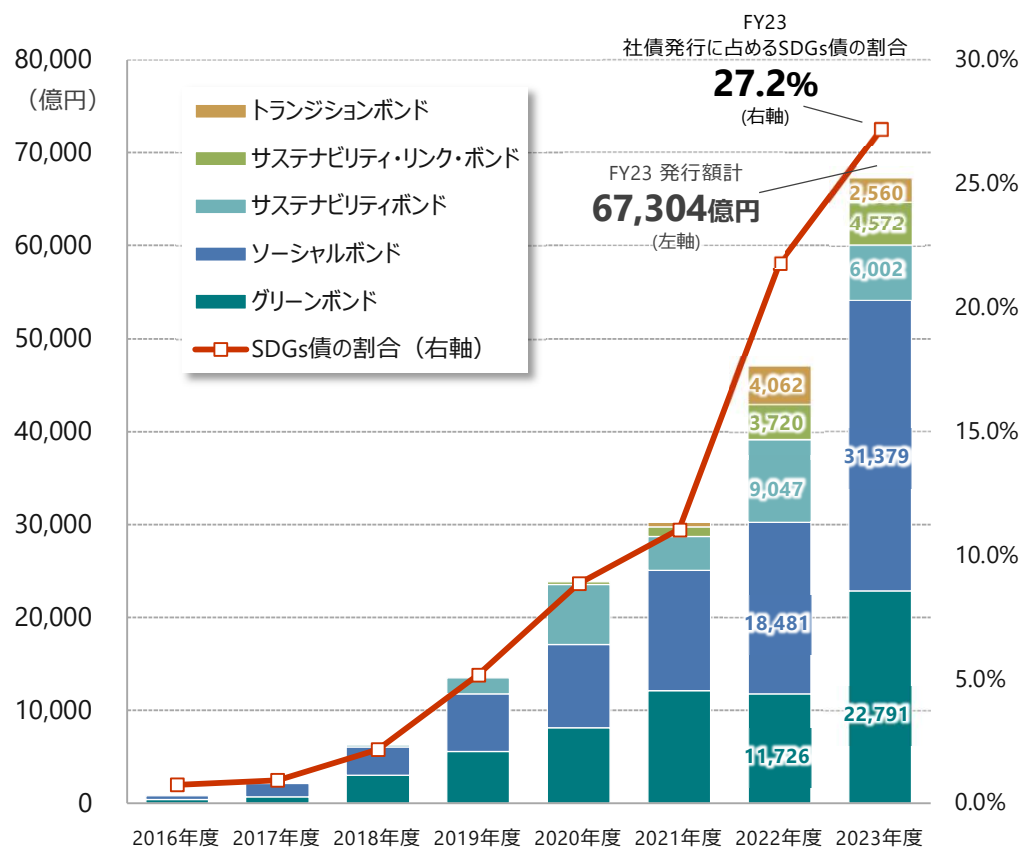
大和総研

グループ各社
...

SDGs債市場の発展



国内SDGs債動向 年度別発行額推移



* 出所: 各発行体開示資料より大和証券作成 (2024年3月31日時点)

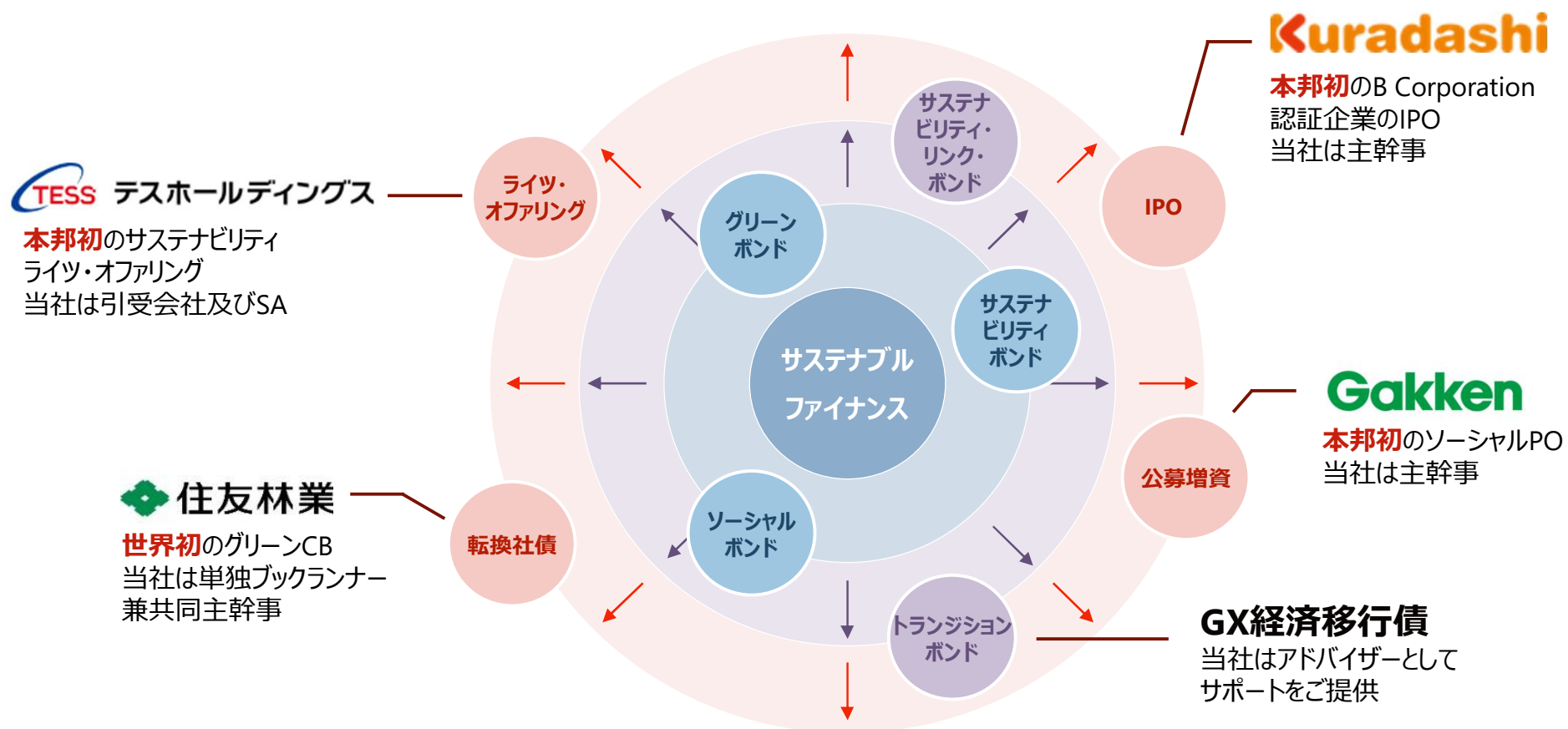
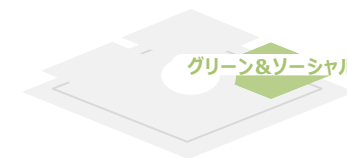
事業法人				
KDDI	日本航空	東急不動産 ホールディングス		
花王	日本電気	テスホールディングス		
旭化成	富士フィルム ホールディングス	三菱電機		
国立大学法人				
東京大学	筑波大学	東京工業 大学	東海国立 大学機構	東北大学
政府関係機関（財投機関など）				
新関西国際空港		国際協力機構	中日本高速道路	
地方公共団体				
東京都		京都市	宮城県	
海外発行体（サムライ債）				
インドネシア共和国		ハンガリー共和国		

* サポートさせていただいた発行体の一部を表示

関連するKPI ※p.6ご参照

SDGs関連債リーグテーブル.....2位以内

サステナブルファイナンスの多様化



ウォッシュリスクの低減に向けた取組み

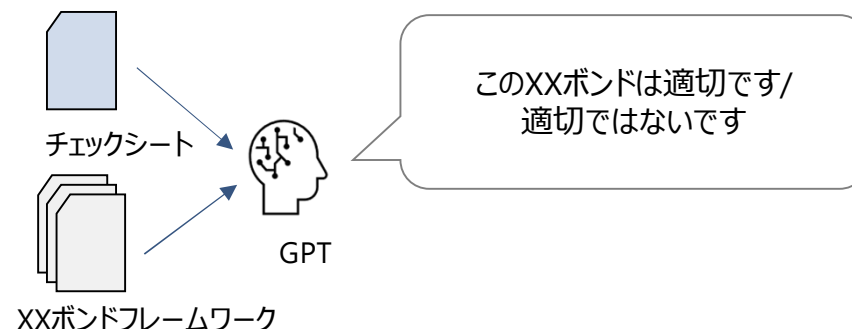
フォローアップミーティングの開催

発行体のトランジション戦略等について、
投資家・金融機関と対話を行うことを目的に開催しています。



生成AIによるポジティブチェック

生成AIを使って、発行するSDGs債のフレームワークが
ICMA原則にアラインしているか判定を行います。

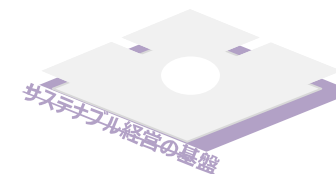


GX検定の受講・資格取得

社員へのGX検定*の受講・資格取得を
推奨しています。



* 環境省認定制度「脱炭素アドバイザー」認定資格 https://green-transformation.jp/gx_certification/
* 出所: スキルアップNeXt 導入事例 https://green-transformation.jp/success_stories/daiwa_securities/



カーボンニュートラルに向けた進捗

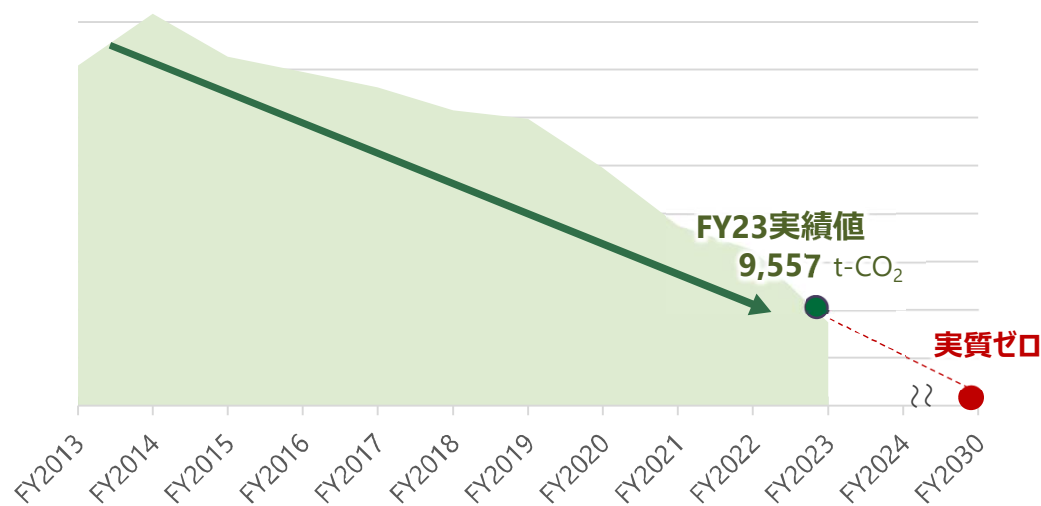
カーボン ニュートラル 宣言

- ① 2030年度までの自社※の温室効果ガス排出量（Scope1・2）ネットゼロ
- ② 2050年までの投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量等（Scope3）ネットゼロ
- ③ 金融ビジネスを通じた脱炭素社会へのスムーズな移行の支援

※ 自社の範囲は、連結ベースで算出予定

1 Scope 1・2 に関する取組み

- ・ 大和証券・大和総研の国内拠点における使用電力を再エネ化
- ・ Scope1・2の2023年度の実績は前年度比で約44%減少



2 Scope3 に関する取組み

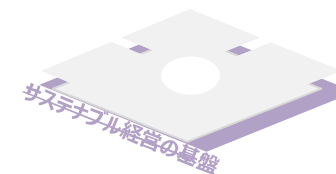
- ・ 高排出セクターを中心に排出量を定期的にモニタリング
- ・ 現時点で最も大きな割合を占める電力セクターのプロジェクトファイナンスについて目標を設定

FY2022末 実績	379 gCO ₂ /kWh
FY2030 中間目標	186 ~ 255 gCO ₂ /kWh
~2050末	ネットゼロ



関連するKPI ※p.6ご参照

温室効果ガス排出量(自社/投融資ポートフォリオ).....ネットゼロ/186~255g-CO₂/kWh(2030年度)



ESG評価は、正しい方向へ向かうための通過点

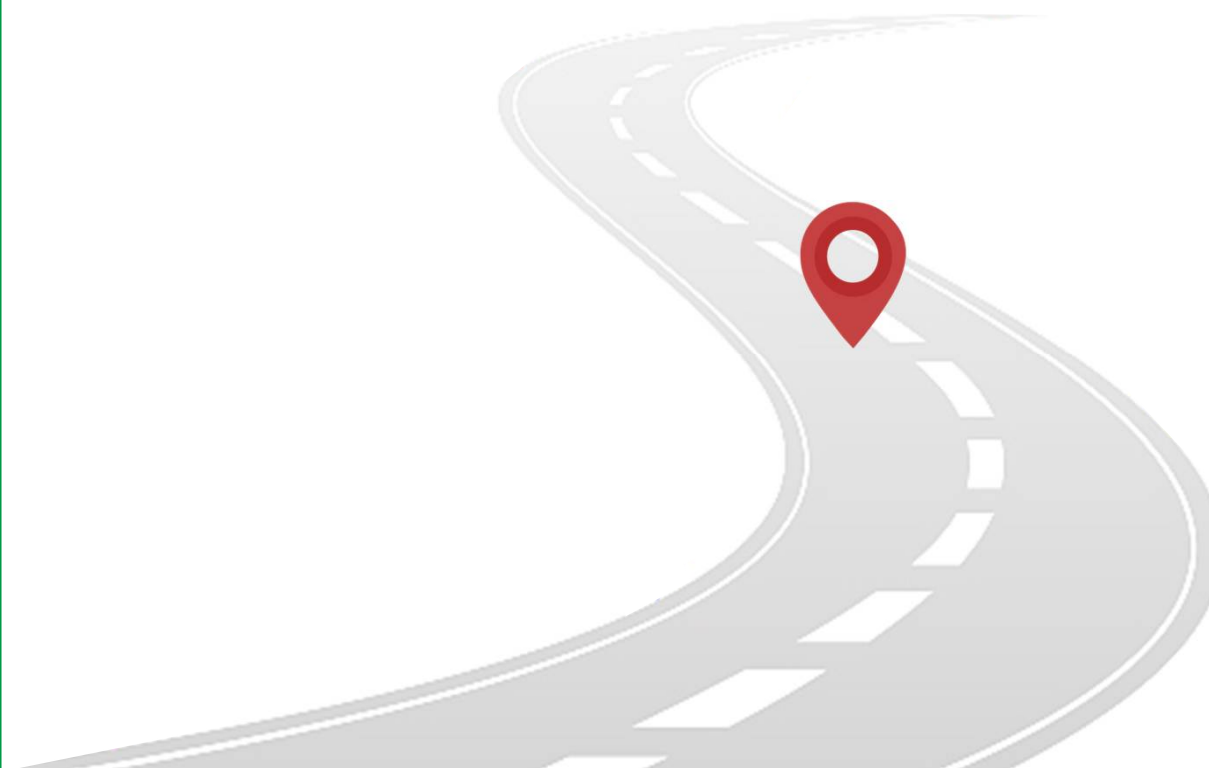


- 2年連続でAAA格付けを獲得
- AAA格付けはグローバルの証券・投資銀行部門に属する52社*のうち当社のみ

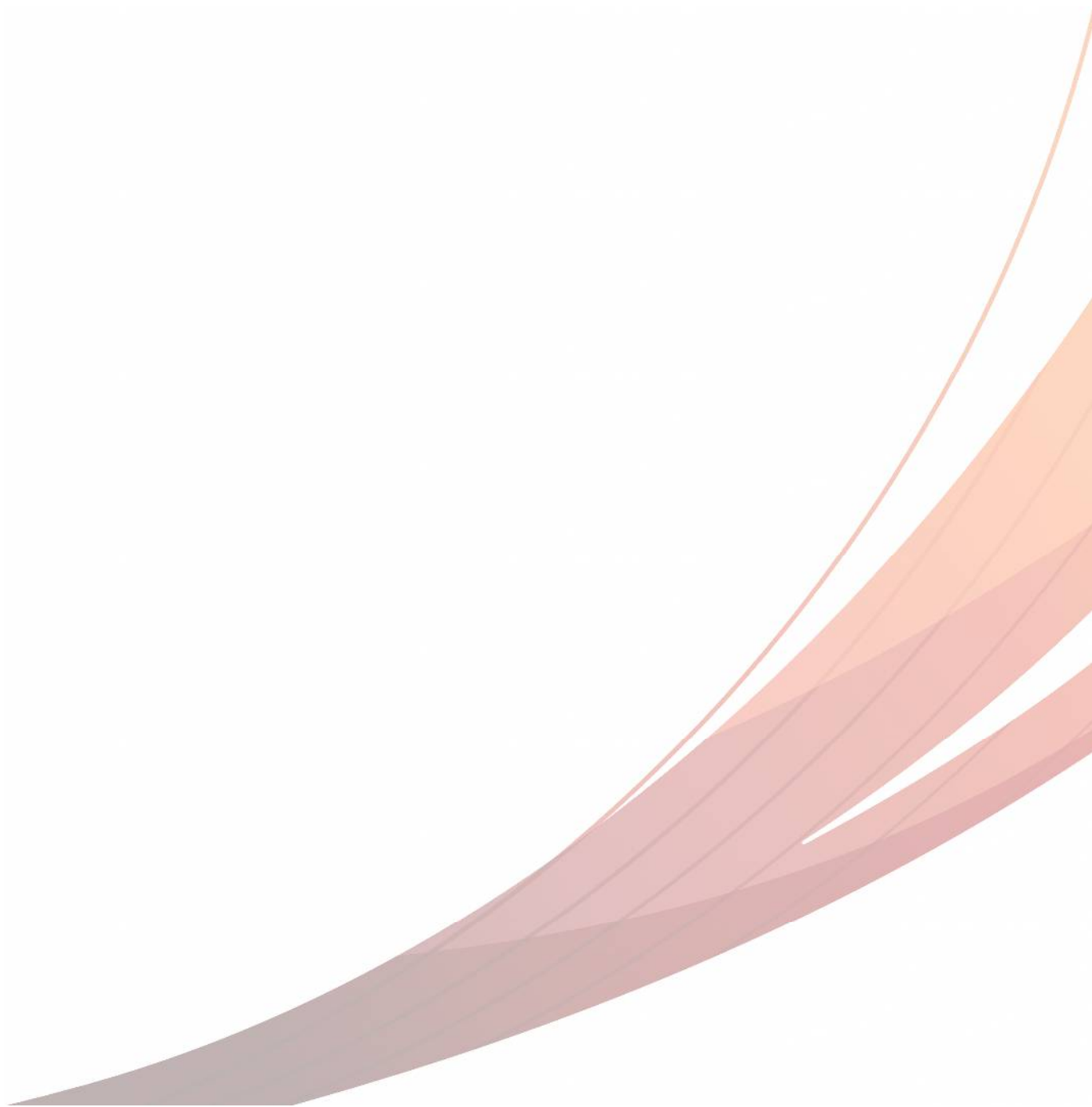


- 3年連続でサプライヤー・エンゲージメント・リーダーに選出

* 2024年7月時点



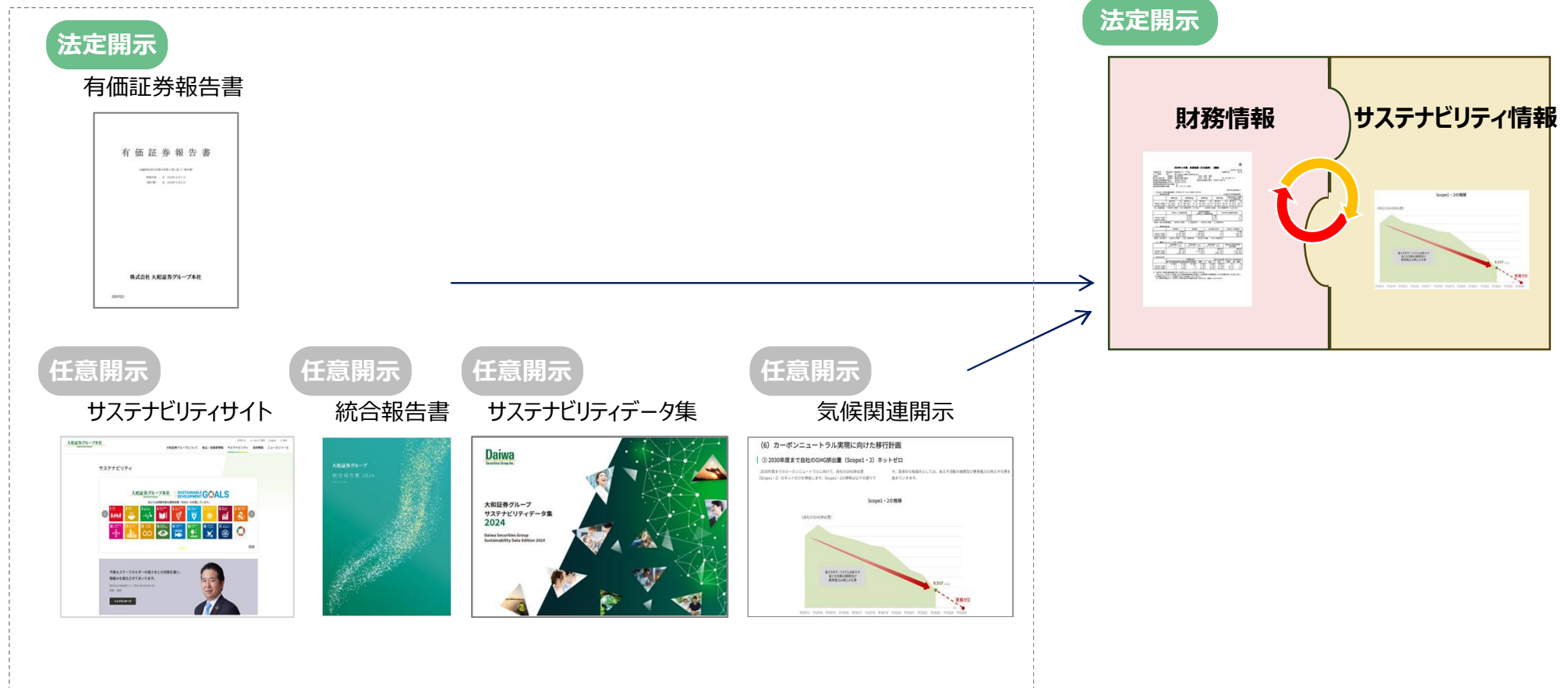
Ⅲ－ おわりに



金融・資本市場のゲートキーパーとして

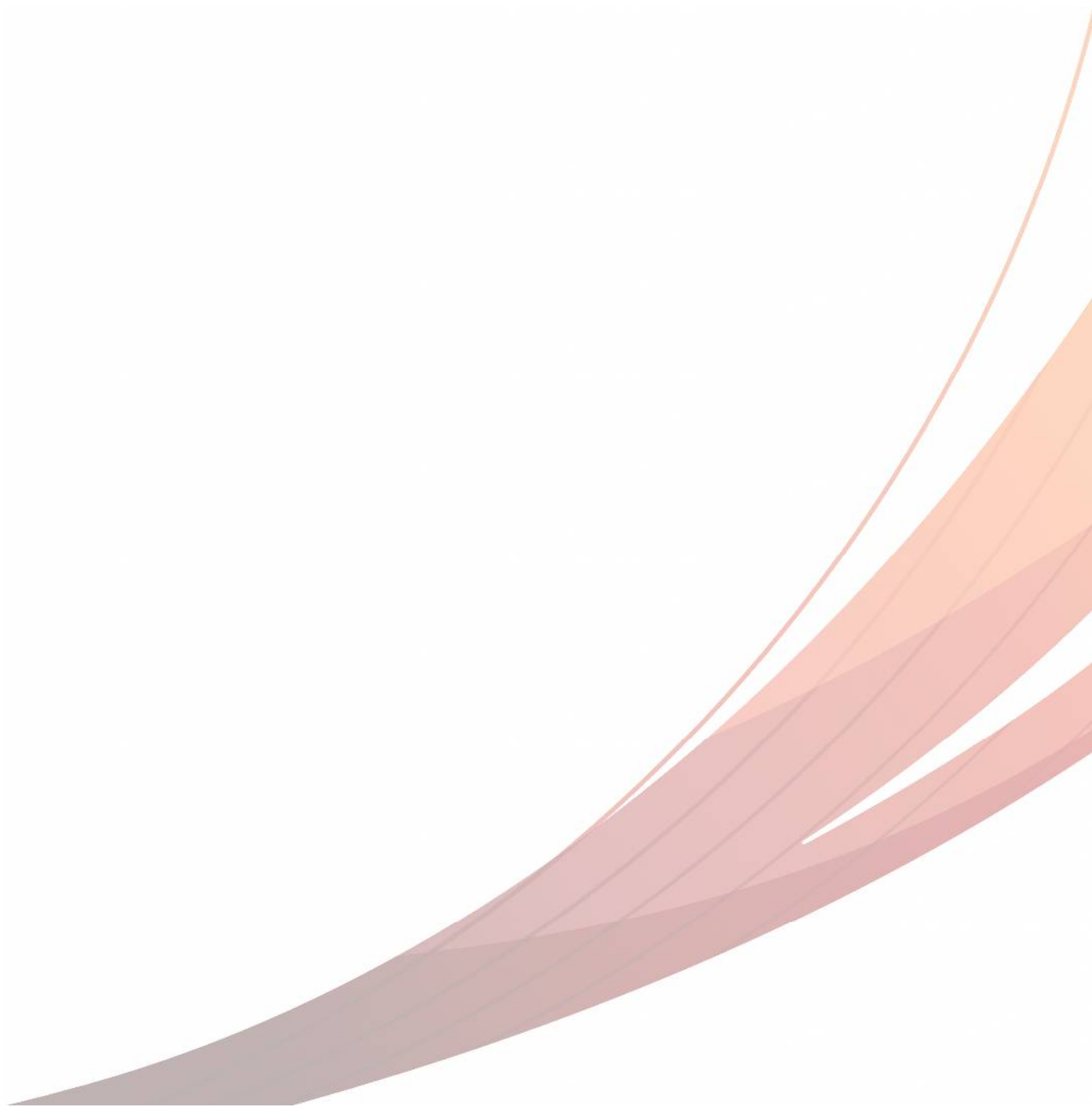


発行体として



投資家の皆様に当社の開示情報をよりご理解いただけるよう、ご希望の場合は個別でもしっかりとご説明させていただきます

Appendix



サステナビリティ推進体制



サステナビリティ担当	当社グループ全体のサステナビリティ関連ビジネスの推進、およびサステナブル経営の基盤強化への取組みを統括	Sustainability Advisory Group	サステナビリティに精通した社内識者が集まり、当社グループの課題や今後の対応を提言
サステナビリティ責任者	当社グループ内の各組織(各本部・グループ会社)において、サステナビリティ関連ビジネスの推進およびKPIの進捗管理を実施	サステナビリティ開示WG	部署横断の組織として、統合報告の観点からサステナビリティ情報開示の拡充を目指す
サステナブルビジネスWG	サステナビリティ責任者のもとで、KPIのモニタリング、サステナビリティ関連ビジネスの進捗状況の把握、課題の洗い出しおよびそれらの課題に対する施策を企画・実施	Scope3排出量モニタリングチーム	投融資ポートフォリオ等に係る排出量の計測および目標設定を実施
ESG対応WG	当社グループのESGに関する外部評価(投資家および評価機関)を参考に、ESG対応を拡充・強化		

当社グループの事業を通じた取組み

- 国内初の個人向けインパクト・インベストメント証券としてのワクチン債に始まり、継続して、社会課題解決に資する新たな金融商品・サービスを開発・提供



* 米国ペンシルベニア州に拠点を置く非営利団体B Lab(Bラボ)が運営する、社会や環境に配慮した公益性の高い企業に対する国際的な認証制度

サステナビリティ情報のレポーティング

- 2020年よりサステナビリティに関する活動事例やESG関連の情報開示をグループ本社HP上のサステナビリティサイトへ完全移行

サステナビリティサイト



- 主にESG評価機関向け
- 当社のESG評価の向上を目的
- サステナビリティ情報を開示

* 各評価機関の要求項目に対応するため、網羅的に表示

統合報告書



- 主に機関投資家向け
- 長期安定的な株主の確保を目的
- ビジネスモデル、経営戦略とそれに付随する財務・サステナビリティ情報を開示



統合報告書解説動画
(約13分)
YouTubeで配信中



サステナビリティデータ集



- サステナビリティ関連のデータを集めて「サステナビリティデータ集」を作成

外部評価

PASSION
FOR THE
BEST

指数への組み入れ等

GPIFが選定するESG国内株式指数すべてに選定



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



FTSE4Good

19期連続採用



2024年採用

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices
Powered by the S&P Global CSA

1999年の指数創設以来
連続採用



2023年採用

アナリストランキング(大和証券)

日経ヴェリタス(株式部門)
2024年アナリストランキング

6年連続1位

日経ヴェリタス(債券・為替編)
2024年アナリストランキング

2年連続1位

2024 Institutional Investor All-
Japan Research Team

5年連続1位

外部評価



ESGレーティング



✓ MSCIの最上位ランクである「AAA」を
2年連続で獲得

✓ 証券・投資銀行業種に属するグローバル52社*中
「AAA」を獲得したのは当社のみ

* 2024年7月時点